

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本当の意味で認知症を理解する為日々のカンファや、ミーティングで確認、学習し、利用者の尊厳を保持しつつ 自立した生活を営む事が出来る支援を意識し実践につなげている	経営体制が変わったことに伴い、職員研修等を通じて事業所理念の再構築に取り組んでいることが分かります。	地域密着型事業所としての理念を形づくることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ地域の方々との繋がりは不十分だが、今年は地域の方々に施設を知って頂き、地域の活動に積極的に参加し、地域の一員として暮らし行ける様支援していく	地元自治会の要望により、事業所を避難所として位置づけたり、地域の祭りへの参加や中学校・保育所との交流を計画するなど前向きな取組み姿勢が伺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広くて高台にある敷地を地域に開放し利用して(夏祭りや災害時の避難場所として)地域との関係を築いていく。中学生などの職場体験を積極的に受け入れる。又、地域のイベントなどに利用者と一緒に参加し、認知症への理解の輪を広げる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政.包括支援センター.自治委員.民生委員.利用者家族などに参加して頂き、現状報告.課題.取組などを報告し情報交換を行っている。頂いた意見を施設運営.サービス向上に反映させている。	行政と地域組織代表者が参加し、事業所の現状や地域の高齢化率等の地域の課題について話し合われています。外部評価結果についても議題として活用されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡.、担当部署への訪問.、市職員の訪問などで連絡を密にとり、協力関係を築いて行く様にしている。	経営体制の変更後、市との連絡を緊密にし連携体制を構築しようと取り組んでいることが、取組みからも分かりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	階段降り口は夜間、(夜勤者が一人になるので危険回避の為施錠している)一人ご家族了解のもとセンサーマット使用.。常に代替法はないか.中止は出来ないかを検討.又、機会あるごとに拘束について指導学、習を行っている	身体拘束の一つひとつの意味合いについて、事業所として吟味し直していることが取組みからも分かります。特に言葉による拘束について、日常の支援をチェックし職員に意識付けを行なっている点は、評価に値する点です。	事業所としての原則をマニュアル等に文書化していくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員を対象にした勉強会を行い虐待防止への理解を深め、意識を高め、利用者本位、尊厳を大切にケアを行う。又、夜間等人手が無く、対応が大変な時は 主任又は管理者へ連絡し誰かが駆けつけられるよう体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダーやケアマネが研修に出席、しそのことを元に施設内研修を行っている。参考資料は職員へ配布しているが、今後も一層学び話し合い活用できるようしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に時間をかけてご家族に説明を行い同意頂いている、年に1回は家族会を行いご家族の思い等を伺い業務に反映する。また規約変更等あれば都度家族会開催し同意を頂く		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し定期的に関函し意見を職員に周知し、反映する。又・面会時にご家族からの意見要望等をノートに書き留め、申し送り、情報を共有し、業務に反映させている。	面会時に家族からの要望や意見を丁寧に聞き取りし、事業所内で検討していることが、諸記録により確認できました。	今後は、外部評価の家族アンケート結果について事業所内で検討し、家族に回答していくことが必要です。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や部署会議を通して意見を出せるような工夫を行っている。又、いつでも必要にな時に意見が言える関係、環境づくりを心掛けている	事業所内の会議を通じて職員の意見や提案を検討していることが、記録と現場職員の方への聞き取りを通じて分かりました。また会議の場では出しにくい事に対しては、管理者が個別の面談を持つなど、職員が意見を出しやすいつくりができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表表を活用し、自身の振り返りを行う。管理者や主任との個人面談を行い自己目標設定を行う。人事考課表を導入出来たらと考えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修を促す・内部研修は年間教育計画を立て実施。外部研修も積極的に参加するようにしている。又今回は全職員他施設への研修も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設実習を取り入れている、この実習をもとに話し合い質の向上に取り組む。またグループホーム連絡会に加入し相互の意見交換を行い、勉強会につなげていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居の段階で 生活歴や本人の意向、ご家族の意向など細かに伺い 又、職員が気付いた事、感じた事をこまめに記録し情報の共有を行い、ケアの統一を図るよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にフェースシートの作成時、話を伺う中で家族の気持ちに寄り添い、いつでも、何でも誰にでも話せる関係づくりを心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず家族、本人のニーズをしっかりと受け止め、目標設定しケアプランに反映する。また初期プランは1か月で見直し さまざまな変化に柔軟に対応できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家事活動などともに行い、本人の有する能力を見極め 仕事を依頼したり、ねぎらいの言葉をかけたりしながら ともに生活している関係を築けるよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族へのお便り 面会時に家族への情報提供等行い、気軽に》面会に来れる環境と関係を作る。又、今後は外出やビアガーデンなど家族参加型の行事も企画予定		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や品物を持ち込んでもらったり、面会や外出、外泊などご家族の希望に添えるよう柔軟に対応している。	利用者の出身地への外出や、家族と一緒にの食事機会の設定など、工夫した取組みが行なわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士の関係や、うまくいかない利用者同士の関係を感じ取り ストレスの少ない席の配置を考えたりと対応している。合同でレクや作業を行うなどして職員が中に入り、利用者同士が関わることで笑顔につながる関係が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何らかの事情でサービスが中断、終了しても、これまでの関係を大事にし、相談援助が出来る関係を維持できるように努めていきたいと思います		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を大切に、日々のケアに活かしたケアプランの作成 個別ケアの実施問題が生じた場合は都度カンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行い、常に利用者が中心にいる。会話や支援を行うことも大切にしている	利用者の日常の様子や言葉を、体調などの状態と併せて丁寧に記録し、いろいろな視点から分析し支援につなげていることが記録等により確認できました。これらの丁寧な記述は、注目に値する点です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に生活歴、既往歴、入所までの生活の様子。できること出来ない事、本人、ご家族の要望などを伺い、基本情報台帳を作成、全員で情報を共有する。又、新しい情報などは都度追加記録し、個人の把握に努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に個人総合記録シートを用いて記録、日報などを通して情報を共有し、異常の早期発見や現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に 本人 家族の意向を確認しサービス担当者会議を行い、それぞれの思いや気づき、意見をケアプランに反映させている	日々の支援から課題を抽出し、ケアプランの策定、モニタリングと丁寧なケアマネジメントの実践がなされていることを確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の身体状況や暮らしぶりが一枚の用紙で1週間が把握できる用紙を使いアセスメントしケアプランの見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	、本人や家族の希望に添えるようケアプランを、より具体的に作成 多様なニーズに応えられる様その都度協議し柔軟に対応。またその日の天気や気分 体調によって外出等にも対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治会 学校 幼.保育園と連携を深め支援の形をこれから考えていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご本人や家族の希望を優先し主治医を決めている。また専門医(皮膚科 耳鼻科)などの受診時も家族に連絡希望を伺う。又結果や経過については密に家族への連絡を行っている	かかりつけ医や協力医との連携により、夜間や休日でも迅速に対応できる体制があります。医療機関や家族との情報共有も確実に行なわれていることが確認できました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの中での気づきなど 報告相談し指示を受けている。また、嘱託医との関係も円滑にいくよう異常時には電話で、その他の時には、往診時に正確な情報を伝え、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時カンファや入院時には必ず看護師が付き添いご家族と医療機関との連携を図っている。また何かあった時に気軽に相談。依頼出来る関係づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時時点で看取りに対する意向確認を行い、本人及びご家族の想いに出来るだけ応えられる様、嘱託医とも連携を取っている。また状況に変化が見られたらその都度ご家族と話し合いながら方針を共有し対応する	利用開始時に終末期の対応についての意向確認を行い、協力医療機関とも連携、状況に応じ家族に意思確認を行うなど、柔軟に対応する体制があります。また職員に看護師資格者を配置し、急変時への迅速な対応ができるようにしていることが分かりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育スケジュールに救急法の研修を組み込み手順を作り対応できるよう実践力を身に付ける		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携定期的に火災訓練をおこなう。スプリンクラー設置あり。職員の連絡網の徹底。火災以外の防災についても対応できるよう訓練を行う	建物の2階部分に事業所が位置していることを考慮した避難訓練の実施や、災害を想定したシミュレーションなどの取組みを確認しました。今後は地域との協力体制についても検討をお願いします。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し特に、無理強い はせず声掛けや対応に注意し工夫を行って いる・食事(本人の意向に合わせて時間をず らすなど)入浴(声掛けの工夫。日にちや時 間をずらす)排泄(プライバシーカーテン、声掛 けの手拭き、排泄用品の選択)	利用者個々の生活リズムに配慮した支援が 行なわれています。日々の会話や支援のタイ ミングなど丁寧に検討されていることが確認 できました。特に利用者の生活歴を重視し、 日々の支援に繋げている点は評価の高い点 です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	想いや希望を表出しやすい関係づくりに心 掛けています。指示、命令、禁止後語は使用せ ず常に依頼系で受容的態度を心掛けてい る。又、ゆとりをもってかかわり、本人の想 いを十分に聞き、自己決定が出来るよう支援 しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を基本に、利用者を中心に考えら れる介護を常に心がけ、入居者やご家族の 希望に沿った介護を展開している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	日常着と寝巻の着替えを毎日行い、女性の 整髪男性の髭剃りにも配慮し、洋服も着替 えるたびに同じものにならないよう、タン ス収納の工夫、汚染時の速やかな着替えな ど、また理美容も定期的に、(本人の希望に 沿って)アタカールで行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	その方の 咀嚼、嚥下、摂取能力に応じた 食形態を常に検討。厨房に依頼している。 飲み物も何種類かの中から本人の希望を 聞き対応。食事時以外に空腹を訴えた時 用に冷凍オムスビを作り対応している	食事前の嚥下体操や、職員と会話をしながら 同じ食卓の食事など、食事を楽しみながら感 覚を刺激するような取組みが行なわれていま す。事業所の庭での焼いもづくりなど、工夫し た取組みも行なわれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握できるように記 録しアセスメントを行う、好みや形態等を考 慮し、検討を常に行っている。また、どうし ても摂取が厳しい場合など看護師と相談し、 栄養補助食品などの検討なども行ってい ます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後自立の方には声掛け、介助が必要 な方には介助し、口腔ケアののれの無い 様記録シートにチェックしている。義歯に関 しては毎晩外し洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体的能力を見極め、できるだけトイレでの排泄を心掛けている。又、本人からの尿意、便意の訴えに対しては待たせることなく速やかに対応する。個人個人の排泄表記録をもとに排泄用品の見直し声掛けの取り組みを検討している	細かな排泄チェックにより、利用者の状態に合わせた排泄支援に取り組んでいます。食事摂取状況や体調等もあわせて現在の状態を把握し、排泄用品を検討するなど丁寧な取り組みが行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録をもとに水分摂取、食事摂取の状況、排便の状態(量や形態について細かく記入)を把握アセスメントし水分の量や食事の内容(繊維質の物)緩下剤などの検討を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の入浴を基本に入浴計画を立てているが、その日の体調、気分などを考慮し、無理強いせず柔軟に対応している。又汚染時なども速やかに対応・入浴を認知に起因すると思われる理由で拒まれる場合は、声掛けの工夫や人を変えるなどで対応	利用者の生活リズムに合わせた入浴支援に取り組んでいます。入浴を拒否する利用者に、声かけの仕方やタイミングを工夫し、入浴する気持ちへ導くなど工夫した取り組みが行なわれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は物音や光に十分配慮し、定時訪室を行っている。起床や就寝の時間に関しても個人の生活習慣や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。日中も本人の想いを尊重し、ソファやベッドで休息をとれる様、柔軟に対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイルして職員がいつでも確認できる場所においている。薬剤変更や臨時薬についても申送り欄。個人のケース記録に書き情報を共有している、又、特殊な薬に関しては看護師が口頭文書で申し送り注意を促している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を細かに聴取したり、趣味や出来ることを確認しながら、本人の出来る事、得意なことを探りながら役割をもって頂き、認め、感謝しねぎらって居心地の良い環境づくりを心掛けている。又 気分転換の為外出するたび柔軟に対応を行う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物など、日常業務の中で状況を見ながら対応している。又年に数回は弁当を持って車で出かけるなどの行事も計画している。	近隣の神社へのドライブや、隣のスーパーマーケットへの買物など外出の楽しみへの支援が行なわれています。事業所周辺の散歩を通じての近所の方との交流機会の設定など、地道な取り組みが行なわれていることが確認できました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方が多いので金銭は事務所で預かりしているが、本人の欲しいものや食べたいものに関して希望があればご家族に確認し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を一緒に作成し出したりはしているがそのほかに関しては、ご本人から自発的な申し出はないので特に働きかけはしていないが、今後はそれらも視野に入れて対応を考えていきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度 湿度 換気、採光には常に気を配っている。また出来るだけ自宅に近い状況で過ごせる様、花を飾ったりと環境を整えている。今後はリビング、ダイニングの区別キッチンでの食事づくりもしていきたい。	季節感を感じさせるような飾り付けや、共用空間での家具配置など、居心地への配慮が感じられる点です。リビングとダイニングの区別など、今後の取組みに期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し 気の合う人と談笑したり、居室との行き来も自由に出来、自分自分の想いで過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して馴染みの家具や品物を持ち込んでもらったりしながら居心地の良い落ち着いた環境づくりを心掛けている。	使い慣れた家具の設置や、面会時の居室利用でのくつろぎへの配慮など、居心地よく過ごせる環境設定への取組みが見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置 ポータブルトイレの設置など安全に配慮しながら、残存能力を十分に活かし、自立した生活が出来るよう支援している。		